

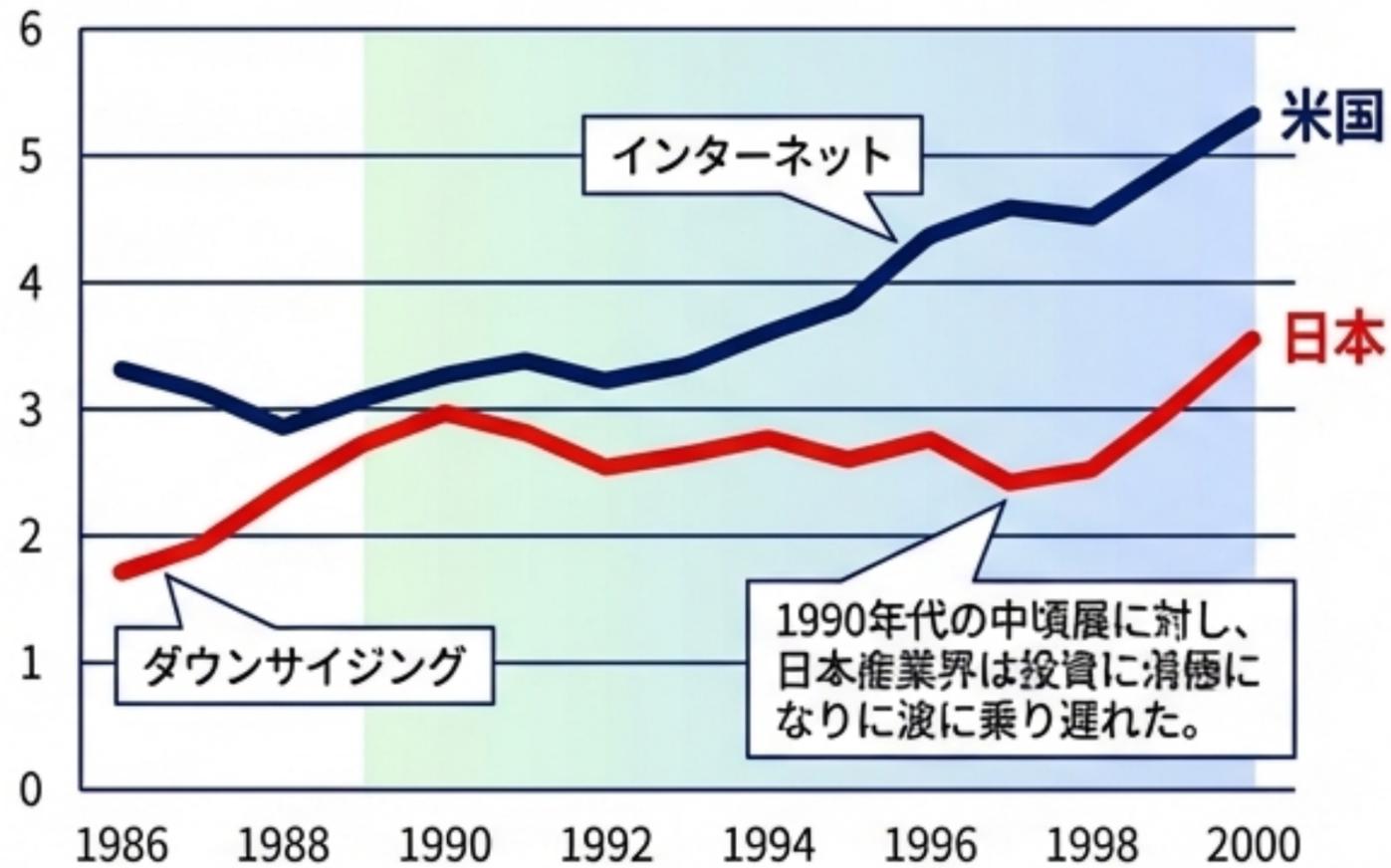
政策の設計図

# 日本のIT革命：キャッチアップ からフロントランナーへ

2000年代の国家IT戦略「e-Japan」から「u-Japan」への軌跡と進化

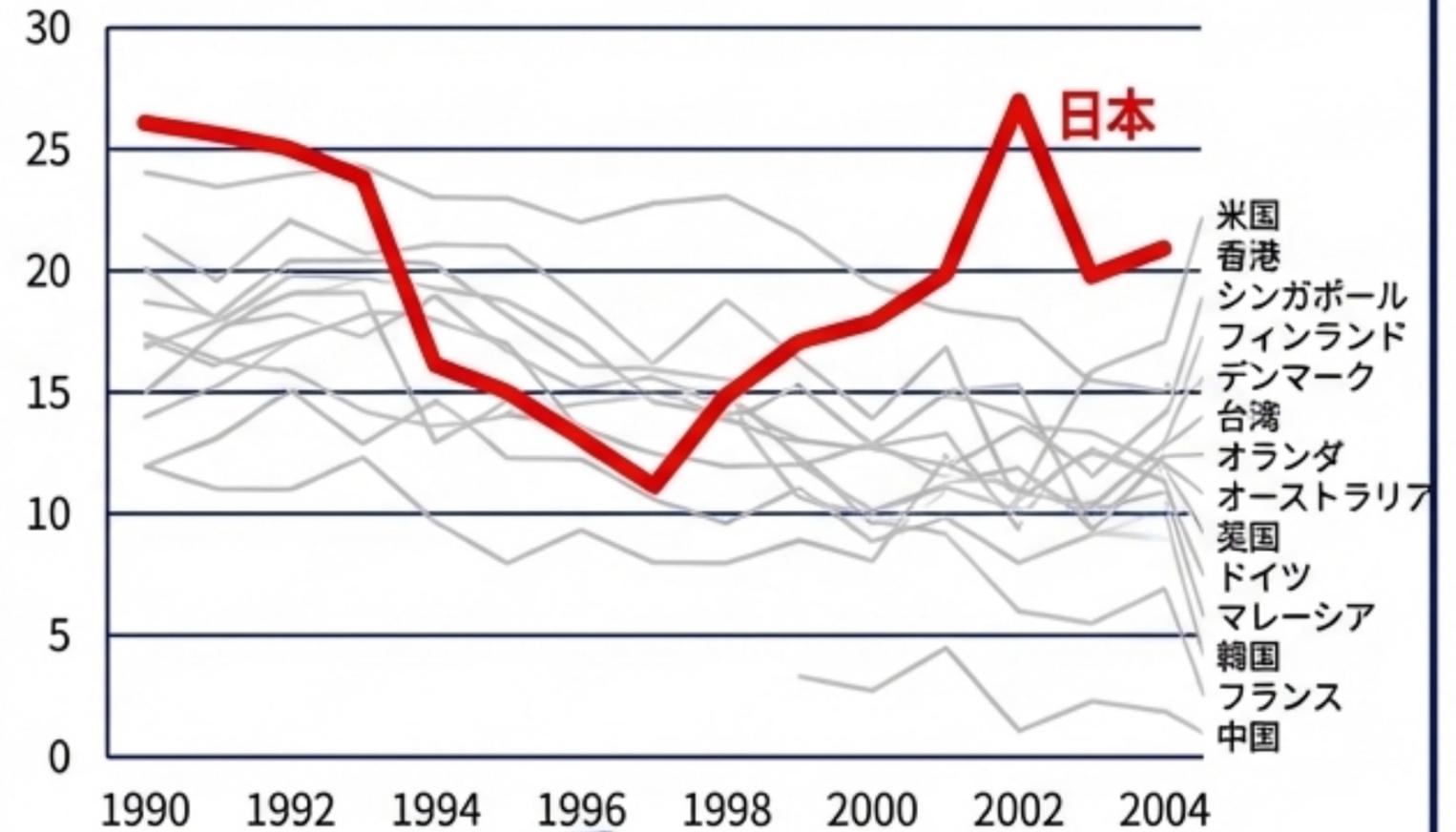
# 発端：バブル崩壊と「失われた10年」

## 情報関連投資の日米比較 (情報関連投資 / GDP) - (%)



日米のIT投資格差：1990年代中頃から急速に進んだインターネットの爆発的发展に対し、日本産業界は投資に消極的になり波に乗り遅れた。

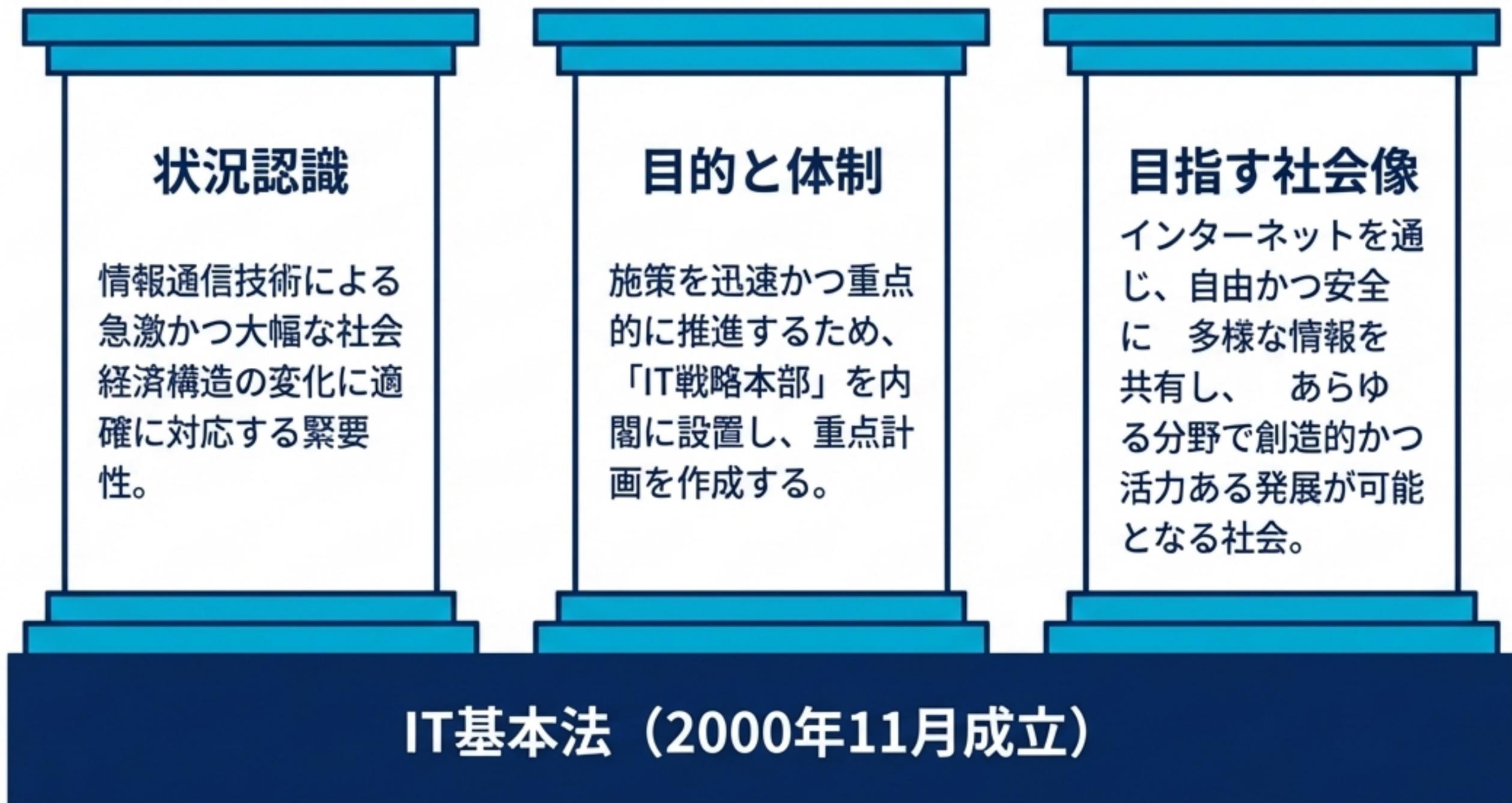
## IMD「国際競争力」の推移



国際競争力の急落：米国のみならず、アジア諸国と比較しても著しい後れをとるといふ国家的危機に直面。

この危機感が、国を挙げた本格的なIT政策の原動力となった。

# 国家戦略の礎：「IT基本法」の制定



# 10年間のロードマップ：基盤から価値創発へ



# フェーズ1：「e-Japan戦略」(2001) - インフラの構築

## 超高速ネットワーク

高速インターネット網3000万世帯、超高速(30~100Mbps) 1000万世帯への常時接続環境を実現。規制の見直しと公正競争の促進。

## 電子商取引の促進

電子契約ルールや消費者保護などの法制整備を実施し、誰もが参加できる市場を創出(2002年目標)。

**目標：2005年までに  
世界最先端のIT国家となる**

## 電子政府の実現

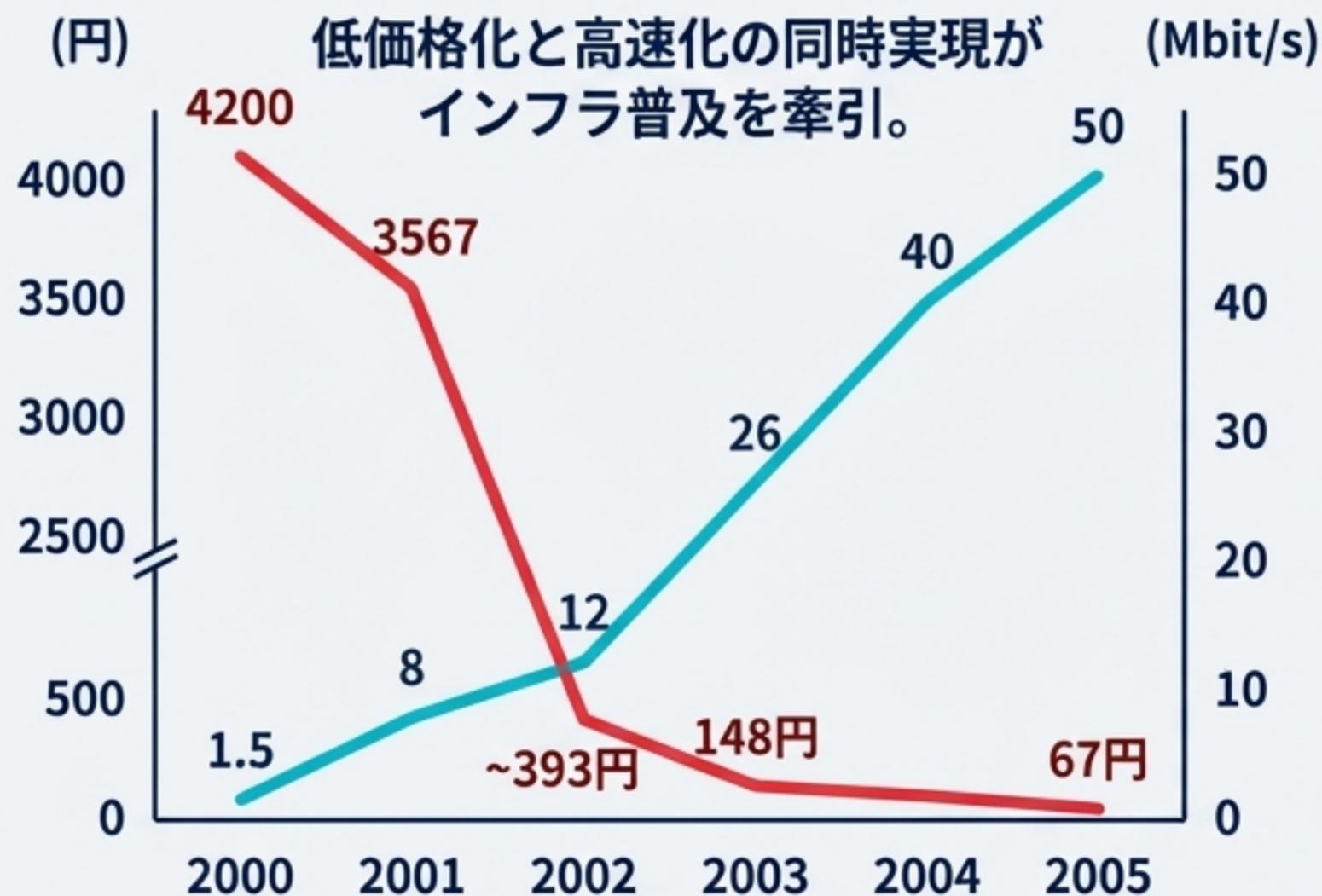
行政内部の電子化、官民接点のオンライン化を進め、電子情報を紙と同等に扱う行政を実現(2003年目標)。

## 人材育成の強化

米国水準を上回る高度IT技術者・研究者を確保し、国民全体の情報リテラシーを底上げする。

# インフラ整備の結実：ブロードバンドの急速な普及

## ADSLの月額料金(1Mbit/s当り)と最大速度の推移



## 目標 vs 2003年実績

目標	2003年実績
高速目標: 3,000万世帯	実績: DSL 3,500万 + CATV 2,300万世帯
超高速目標: 1,000万世帯	実績: FTTH 1,770万世帯

結論：インフラ目標は2003年時点で前倒しで達成。「回線を引く」段階は完了した。

## フェーズ2：「e-Japan戦略II」(2003) - パラダイムシフト



行政の効率化の遅れなどを是正し、  
新たな価値を創造する社会・経済システムへ移行する。

# 推進の加速：2004年「加速化パッケージ」

2005年の最終目標に向け、各府省の連携を強化するための「A～F」の重点施策。

## F: Friendly (電子政府・自治体)

利用者目線での行政効率化と  
利便性向上。

## E: Evaluation (評価)

民間視点の評価を取り入れ  
たPDCAサイクルの定着。

## D: Deregulation (規制改革)

文書・帳票の電子保存、  
医療分野のIT化など。

## A: Asia (アジア国際戦略)

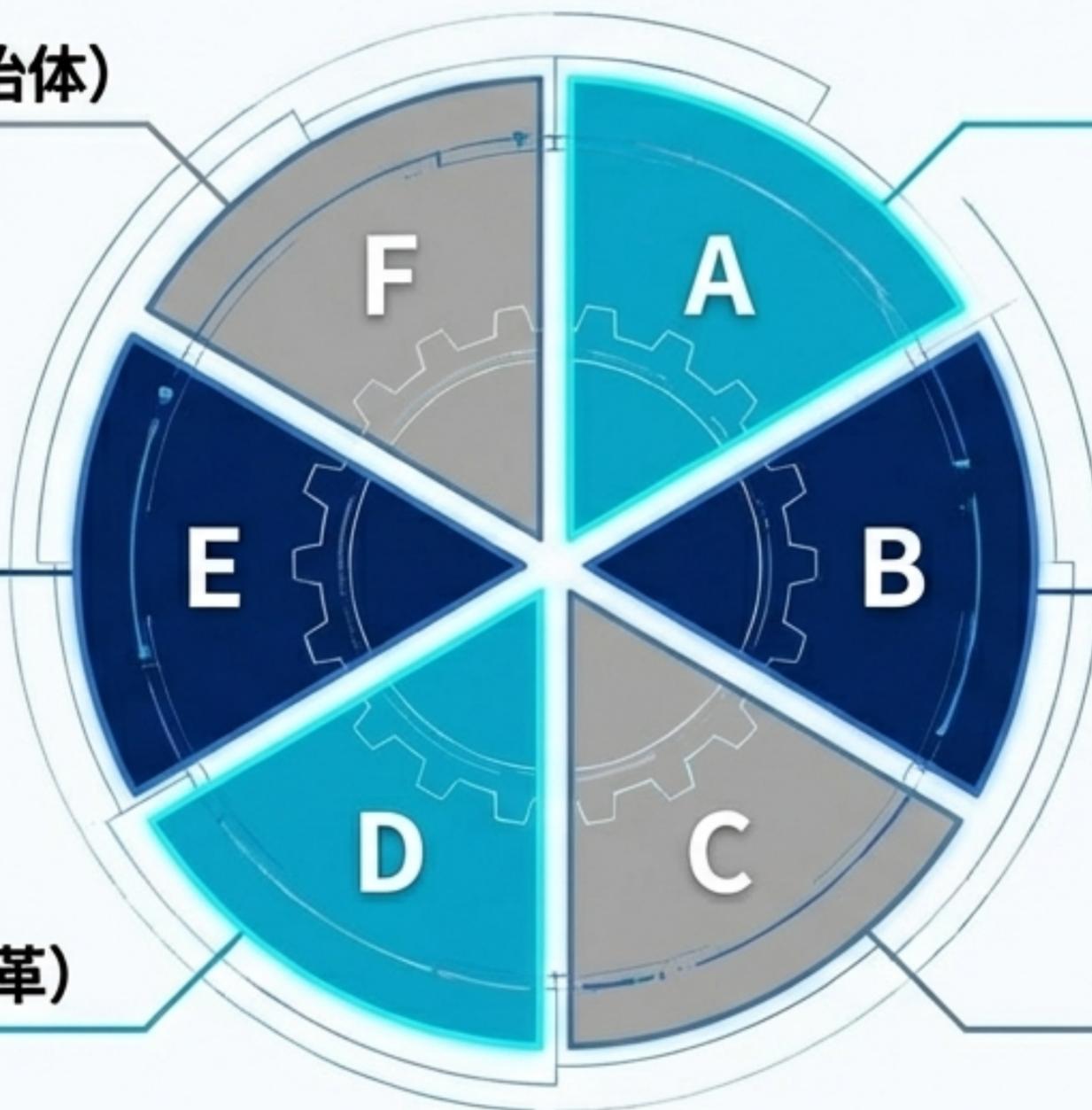
アジア地域における情報通信  
網の拡大と協力。

## B: Block & Back-up (セキュリティ)

重要インフラの情報セキュリ  
ティ強化と安全・安心の確保。

## C: Contents (コンテンツ)

著作権制度の見直しと  
クリエイター育成。



# 新たな課題への適応：「IT新改革戦略」（2006）

背景：2007年問題。  
「団塊の世代」の大量退職と  
本格的な人口減少社会の到来。

## 効率性・生産性向上

ITをエンジンとした公的・民間部門の社会的なイノベーションの実現。

## 健全で安心できる社会

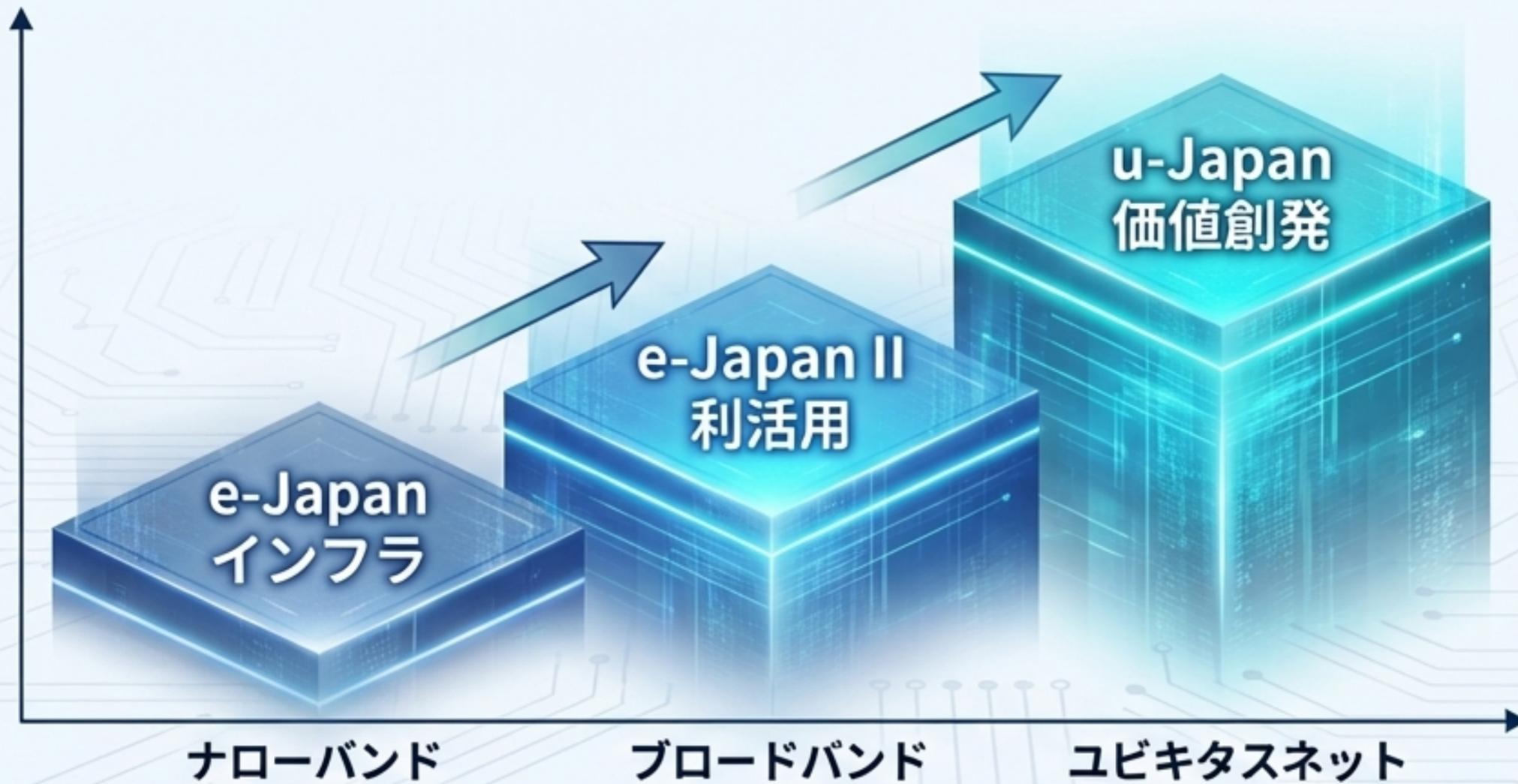
老若男女問わず、医療や社会保障分野でITを活用した豊かな生活の維持。

## 創造的発展基盤の整備

いつでも、どこでも、誰でも使えるデジタル・デバイドのないユビキタス・ネットワークと高度IT人材の育成。

# フェーズ3：「u-Japan」(2010目標) - キャッチアップからフロントランナーへ

ユビキタス (ubiquitous) とは：「(神のごとく) 遍在する」。どこでも、いつでも、情報機器を意識せずに利用できる、日常生活に溶け込んだ状態。

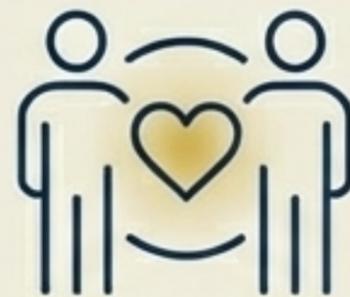


人間と情報機器が自然に融けあう「共生社会」の実現こそが、  
IT革命の最終地点である。

# 次世代ICT社会を定義する「4つのU」



**U** **Ubiquitous (ユビキタス)**  
あらゆる人や物が結びつく。  
ネットワークの遍在性。



**U** **Universal (ユニバーサル)**  
人に優しい心と心の触れ合い。  
老若男女を問わない包摂性。



**U** **User-oriented (ユーザ・オリエンテッド)**  
利用者の視点が融けこむ。  
技術主導からの脱却。



**U** **Unique (ユニーク)**  
個性ある活力が湧き上がる。  
多様な価値創造の基盤。

# 2010年 u-Japan実現への「3本柱」とKPI

## 【整備】

100%

ユビキタス・ネットワークの整備：国民の100%が高速または超高速を利用可能になるインフラの完全網羅。

## 【評価】

80%

ICT利活用の高度化：国民の80%が「ICTは社会課題解決に役立つ」と実感を伴って評価する社会の実現。

## 【安心】

80%

利用環境整備：国民の80%がICTに対して安心感を得られる、強固なセキュリティと信頼の構築。

# 政策パラダイムの進化：10年間の総括

	e-Japan 戦略	e-Japan 戦略 II	u-Japan 政策
目標年 (Target Year)	2005年	2005年	<b>2010年</b>
フェーズ (Phase)	基盤整備 (Infrastructure)	利活用 (Utilization)	<b>価値創発 (Value Creation)</b>
国際的立ち位置 (Global Posture)	キャッチアップ (Catch-up)	課題解決・最適化 (Optimization)	<b>フロントランナー (Frontrunner)</b>
戦略的キーワード (Keyword)	ブロードバンド、 回線整備	先導的7分野、 電子化	<b>ユビキタス、 人間との共生社会</b>

**「日本のIT国家戦略は、インフラ構築という『物理的な課題』の解決から始まり、人口減少という『社会課題』を乗り越え、技術が日常に溶け込む『ユビキタス社会』のデザインへと進化した。」**

危機感から始まった10年の軌跡は、次世代の「価値創発」を支える盤石な基盤となっている。